

No. 1048

人質全員解放

シンガポールの製油所襲撃、クウェートの日本大使館占拠事件の犯人を南イエメンのアデンまで運んだ日航機は2月10日午前8時羽田空港に帰ってきた。三木副総理、アル・グセイン駐日クウェート大使らに出迎えられた外務省の田中秀穂中近東アフリカ局長は空港での記者会見で事件の模様を次のように語った。

——こん度の事件について、シンガポールでの事件はあくまでシンガポールの主権下で起きた事件でこの犯人の中にたまたま日本人がいたというだけのことだ。クウェートの事件は日本大使館が襲われたので、日本としてはこれを救出しなければならないと日航機を出した。犯人たちは彼らの主義、主張を訴えることはなかった。我国の中東政策がまちがっているとは思わないが、パレスチナという問題が間に介在しているので、この問題の処理の難かしさを痛感するとしか申し上げようがない。まあ、短いような、長いような、今考えると夢のような時間でありましたが、すべての人が無事で帰ってきたのは皆様方の御後援のお蔭だと思います。ありがとうございました。——

七転び八起き

—全国身体障害者スキー大会—

ある者は足を切断し、ある者は脳性マヒのためスポーツへの参加を閉ざされていた身体障害者たち。そんな彼等に少しでもスポーツの喜びを、と、2月10日長野県志賀高原竜王スキー場で「第3回全国身体障害者スキー大会」が開かれた。不自由な身体のハンデにもめげず参加した選手は四十名を越えた。

旗門30、距離200メートル、平均斜度5度にみたくない緩斜面で行なわれた競技会は、レース前自分が申告した予告タイムと、実際に滑ったレースタイムとの差の少ない者が優勝というシステムだ。したがって上手、下手にかかわらず誰にでも優勝のチャンスがある。滑ってはころび、起きては滑る、誰の力も借りることはできない。自らの力の限り戦う身障者たち。滑り終えた彼等の表情に苦痛の影は見えない。充足が笑顔の中にみなぎっている。

大会は終わった。優勝は、出場者中最年少、十二歳の黒川覚君の頭上に輝いた。予告タイム60秒、レースタイム59、8秒、その差僅かに0、2秒であった。表彰式はそのまま身障者たちの交歓の場へとかわっていった。そこには、閉ざされた室の中では決して見ることでできない、解放された彼等の姿があった。